

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871406317
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム昴星
所在地	西予市城川町下相693番地
自己評価作成日	平成23年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の人や家族の方がいつでも訪問出来、職員がきびきびした行動でゆとりのある対応を常に心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議を定期的開催し、地域との情報交換など行い、地域交流に活かしている。家庭的な雰囲気の中で、利用者の思いや意向が実現できるように、取り組んでいる。母体が医療機関であり、毎月の定期的な往診や情報交換により、主治医や看護師は入居者の健康状態を充分把握しており、医療と介護の連携も良好である。利用者や家族の希望があれば、看取りも取り組んでおり、職員の介護力の向上の為の研修や、資格の取得にも積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 昴星

(ユニット名) 第一ユニット

記入者(管理者)

氏名 高橋 志万子

評価完了日 平成 23 年 1 月 4 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ホームをひとつの家族と考え、地域密着型サービスの意義を十分に踏まえた理念を作っている。職員は全員が理念を共有し、より深く実践するため昼休みなどに話し合いを行うこともある。理念に掲げていることは、概ね実践できている。</p> <p>(外部評価) 開設時には法人の運営方針を理念としていたが、分かり易い理念にしたいという思いで職員全員で話し合い、住み慣れた地域で普通の生活が継続できるように、利用者本位の理念を掲げ、日々のケアに活かしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所づきあいまでは出来ないことが多いが、地域の行事などには積極的に参加し交流を深めている。デイサービスの利用者との交流もあり、少ないながらも努力はしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議を通じて情報交換はできており、地域の方のホームの認識度も高い。地域の小、中学校の職場体験やボランティアの受け入れ、地域ボランティアの踊りやコーラスの受け入れなどしている。また、1階にデイサービスがあり、地域の方との交流もある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地元の役員会(常会)に参加し、介護教室や認知症に関しての話など、協力できることがあればいつでもその用意があることを伝えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議では忌憚のない意見をいただけるように、和やかな雰囲気で行っている。地域の皆様の考えやご意見を頂き、施設の問題（駐車場）の改善に向けた話し合いが行われることもあった。(来年度着工の予定)	
			(外部評価) 2か月毎に開催できるように、ホームの行事と合わせて開催するなど工夫している。利用者や家族、地元関係者、行政の担当、地域の他事業者などに参加してもらっている。外部評価の結果報告も行き、会議の出席者と共に次のステップへ向けて取り組む目標を検討し、協力を得る取り組みを行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 利用者のことや困難なケアプランのこと等相談し、指導を得ている。	
			(外部評価) 運営推進会議には出席してもらっており、情報交換や意見をもらっている。また、困難な事例は相談しアドバイスしてもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入居時の混乱している間は、夜間に玄関の施錠を行うこともあった。日数がたち落ち着くにつれそれはなくなった。意思の疎通が出来ない方に、経管栄養注入時や、清潔援助時にミトンを使用することもある。(チューブの抜去あり)	
			(外部評価) 重度の利用者が多く、入居時などに利用者の状態や状況に応じて身体拘束を行う場合もある。現在、家族の同意を得て、止むを得ず身体拘束を行う場合がある。また、支援経過の記録を元に、毎月カンファレンスを行い身体拘束についての検討も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉の暴力や、心身に傷をつけないケアを目指している。小さな痣や傷がどのようにしてついたのか追跡し原因を突き止めるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護の制度の活用をする利用者がいないため、通り一遍の学習しか行っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前調査時や契約の際に十分に話し合い、納得をいただいている。解約または改定については利用者や家族の不安や疑問点がないように文書を発送し、また面談時に説明を行い納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 希望・意見・要望は面会などを利用し、聞くようにしている。運営推進会議には出席している利用者からも意見・要望の表出が出来、また、介護相談員の訪問日を利用者に伝え、外部へあらかずことが出来る機会を設けている。 (外部評価) 家族会は、納涼祭などの行事に合わせて年2～3回開催している。5～6組の家族が参加している。遠方の家族にも定期的に利用者の心身の状況などを報告している。ほとんどの家族が3か月に1回以上、面会に来ており、その際に話し合いも行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 会社全体の会議が(総務)2ヶ月に1回あり、意見交換がされる。事業所では毎月会議を開き、職員の良い意見を吸い上げ、経営者や役員に提案や、報告をしている。</p> <p>(外部評価) 管理者は毎月の業務カンファレンスで職員の意見など聴く機会を設け、話しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見や提案は、法人のホーム長会議で検討され、代表者に伝わる仕組みもできている。また、資格の取得も積極的に行われている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 必要な資格に対しては手当がつく。その他時間外や委員会活動手当などがつく。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員の育成に対する取組みは、その職員の力量や経験年数に応じて、アドバイスしている。研修を受ける機会は多くあり、そのつど掲示し希望者を募っている。研修後は会議の場で報告し、全員での共有を図っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 今年度から、会社内の職員が訪問し、今まで以上に交流が増えた。その場では、忌憚のない意見交換が出来る。他グループホームとの交流も少しずつ増やし、したい。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 認知症が重度になり、意思の疎通が困難な方もいる。しかし、会話を通し笑顔が見えたり、苦痛にゆがむ表情を見逃さないように努めている。本人に合わせた会話を心がけ、希望・要望は可能なことは聞き入れ、不安なく楽しく生活できるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査や、契約時の話し合いで、家族の大変さを理解し、また、本人の思いを受けとめている。不安に思うことや困ることなど、何でも誰にでも相談できることを伝え、家族や本人の気持ちに耳を傾け、関係性を築いてきている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 認知症が重度化している方が多い。本人のレベルや家族状況やなどを考慮し、急ぐ場合は他施設との掛け持ち入居申し込みや、デイサービスに繋ぐなどの対応をしている。本人や家族の希望もあり、終の棲家となることもある。医療との連携を密にし、また、他科の受診の必要がある場合、必要に応じた見極めをしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 時には親子・孫のような関係になることもある。若い職員は教わることも多くある。本人がどのように生活をしたいたいのか、毎日の関わりで見えてくることもあります。塞ぎ込んでいる時、一寸した声かけで、お腹を抱えて笑うことがある。本人を知ることはとても大切なことと認識しています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日常的に、細かいことまで家族には連絡をしている。家族は本人を預けているので、現在のことは分からないことが多い。深く知っていただくために、このようにしています。また、どのようにするべきか指示を仰ぐことや意見を聞くこともある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望を聞き、お墓や生まれた場所などにいくことがある。友人や親戚・知人などに会いにいけるように支援している。デイサービスには、毎日のように行き懐かしく話し合い、なじみの関係が途切れないように支援している。 (外部評価) 「家を見に帰りたい」「姉に会いたい」など個々の利用者の希望に沿うように外出などの支援を計画している。また、家族にも協力してもらい温泉に行くなど、積極的に関わられる機会を持ってもらえるような支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 認知症が進行し、会話も出来にくい場合がある。耳が聞こえにくい利用者が多く、仲を取り持ちながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 夫婦での入居者のお一人が退去（死亡）され、残された夫のことでは、家族や本人と十分に話し合い、今後のことについて前向きに支援している。何事も息子さんに報告し関係性を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人本位に生活できるように、起床や就寝、食事時間など希望に沿った支援をしている。おやつなど買いたい希望のものは、一緒に買いに行くなど、思いや意向が実現できるように支援している。意思の疎通の困難な場合は、表情を見て本人本位に検討している。 (外部評価) 利用者本位の生活が送れるように支援している。寝たきりの利用者についても、職員の思い込みの介護にならないように表情など見ながら支援している。家族の面会時には時間をかけて話を聴くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族の面会持・なじみの方の訪問のときなどに、これまでの暮らしぶりなどの把握に努めている。事前調査表などからも、情報を集めている。日々の生活の中からも、これまでの生活歴が分かることも多くあり、何気ない一言を聞き漏らさないようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 今出来ることを維持するために、毎日の訓練やリハビリ体操を続けている。生活リハビリを取り入れることで、穏やかな生活が出来ている。嚥下力の落ちた利用者には、嚥下体操を実施している。その時々の変化を見逃さないように、出来る力、わかる力力の発見に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のカンファレンスを行い、アセスメント・モニタリングを行っている。その中で職員からの気づきや意見を取り入れている。身体の変化に即したプラン作りをし、また、家族の面会時に、本人と一緒にカンファレンスを開き今の要望や意見も取り入臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 各ユニットごとに、毎月カンファレンスを行っている。全職員の意見が聞けるように、事前に文書で提出してもらって介護計画の実施状況や達成状況について評価し、計画作成者と職員で話し合い、状況に応じて計画の変更も行っている。家族には計画の説明をし同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日に記録やケアの実践から得た気づきを、職員全員が別紙に書き込み、介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 受診には同行介助している。その他買い物に同行したり、大きい物は家族の希望により職員が買いに行くこともある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の歯科医院やオム背など協力を得ている。ボランティアで踊り会、民生委員や小・中学校生などの力を借りた取り組みをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 家族の同意や希望により、協力医療機関を主治医に している。定期的な往診がある。その他、専門病院には 職員が受診介助している。</p> <p>(外部評価) 定期的な往診と24時間の医療連携により、きめ細や かな健康管理や情報の共有化ができており、適切に医 療を受ける事ができている。協力病院との連携もでき ており、利用者や家族にとって安心できる体制ができ ている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 各ホームの介護職員に准看護師がおり、日々の変化を 直ぐに報告できる。また訪問看護師との連携が取れて いて状況を相談しながら、健康管理や医療支援に繋げ ている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院先はほとんど医療連携施設であり、患者のことは 主治医や訪問看護師に理解できている場合が多い。施 設での毎日の記録用紙との介護サマリーを持参してい る。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に、本人と家族の意向を聞いている。しかし、 現実と直面したとき考えが変わることもある。利用者 側の気持ちの変化や、事業所の対応力等を考慮し、出 来る支援を見極めながら医療との連携を図り、チーム で支援している。緊急時希望対応書を作成し同意書を 得ているがいつでも変更できることを伝えている。</p> <p>(外部評価) 開設当初から母体の医療機関と連携し、24時間体制 での看取りを実施している。家族、主治医など関係者 と充分話し合いを行い、協力して利用者の終末の支援 を行っている。また、ターミナルケアの研修を実施 し、全ての職員が対応できるように取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時や身体状況の急変に対して慌てず確実に対応できるように、日々の職場で実践訓練することもある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の指導のもとで訓練を実施している。歩行できない方の救助方法や、車椅子の方のおんぶでの救助方法を学んだ。夜間を想定した訓練なども実施している。 (外部評価) 年2回の消防署立会いの避難訓練を実施している。運営推進会議でも報告したり、災害時の協力もお願いしている。また、ホームを避難場所として提供できる事も話している。IHの調理器具を使用し、喫煙は決められた場所で行うようにし火災を起こさないように気をつけている。	非常災害が発生した場合を想定し、定期の避難訓練とは別に日常的に具体的な対処方法や、避難経路及び協力機関などとの連絡方法を確認しておくことが望まれる。また、運営推進会議で地域の関係者と避難訓練を行うよう検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) おむつ交換時、便・尿失禁、入浴時等、はずかしめることがないように気配りしている。精神疾患のある方の苦しみを理解できるように(専門病院受診中)、いつも立場を置き換えた訓練を行うことで良いケアが出来ることを実感している。 (外部評価) 家族に普段の呼び名で声かけする事を了解を得ており、利用者のよっては「・ちゃん」と呼んでいる方もいる。声かけに問題がある時は、職員間で話し合っている。プライバシーの保護や法令遵守の研修は毎年行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 衣類の選択や、おやつ希望など、自己決定できるように支援している。意思表示の出来ない方は、全身の反応や表情を見ながら気持ちを受け止めるように支援している。利用者の表情を見ることで、思いが通じたか把握できる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的には可能な限り、本人の希望に沿った暮らしが出来るように支援している。散歩に出かけるとき2人以上の方が同時に行きたい場合などには、理由を伝え待っていただくこともある。起床時間や就寝時間も本人のペースで行い、朝食時間は、食べたいときに摂っていただいている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服の選択が出来る方は少ない。しかし2種類くらいの中からどちらかを選ぶことは出来る。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みである新鮮な野菜をふんだんに使い、献立に取り入れている。畳に座る希望者がいないため、職員と別に食べているが、近くで見守っている。準備や片づけを一緒にすることで、次回の希望食が聴き出せる事もある。 (外部評価) 利用者のできる事を大切にしながら、職員と一緒にやっている。地域のスーパーから材料は配達してもらっているが、野菜は自家栽培の物を使用している。野菜中心の健康的な食事内容になっており、利用者も残さずしっかり食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分量の摂取の必要性を説明し、なるべく口からの摂取ができるように支援している。好きな飲み物にしたり、方法を考え実行している。ミキサー食にしたり、食べるスピードなども声をかけることで、本人が自覚できるように配慮している。ご飯だけしか食べない方には、医師の判断で経管栄養に替わった。しかし口からの摂取ができるように毎回食事も提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアを自らできる人は数名で、本人の力に応じた声かけや介助を行っている。経管栄養中の利用者も1日1回以上の口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレに行くことが億劫になり、パンツの中でする方もあり、声かけをし誘導することでトイレでの排泄ができています。夜間も数回声かけをしトイレに行くことができています。また、居室に尿瓶を設置している方もある。	
			(外部評価) 寝たきりで重度の利用者はオムツを使用しているが、他の利用者は紙パンツなど使用しトイレ誘導をしている。夜間はポータブルトイレを使用している利用者もあり、利用者の状態に応じた排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便状況を把握し、経管栄養だけの方には腹部マッサージを行ったり処方されている薬を服用することも。基本的には、新鮮な野菜を使用し、調理に工夫を凝らしている。おやつにもホームで取れた芋を使うことも多い。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間や曜日の決め事は無く、希望のときに入浴できるようにしている。自ら希望する方はほとんどいないため、入浴状況や入浴希望者を募り、支援している。寝たきりの方や困難な方は、二人体制で支援している。	
			(外部評価) 家庭用のユニットバスで週2～3回の入浴を行っている。希望により毎日でも入浴できるよう対応している。午後7時までであれば希望の時間に入浴はできるが、今は午前中に入浴する利用者がほとんどである。重度の利用者も浴槽につかれるよう職員2人で介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動状況を、申し送りや夜勤者に伝えている。おむつの汚れで不快感が残らないように洗浄や清拭を行っている。夜間に覚醒している方は、家族との連携もよく、身体を休めるために昼間の休養も大切との判断になった。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬を防ぐために、名前別に一回分ずつを分包している。理解できない方には手のひらに出したり、口の中に入れるなど確実に服用できるように支援している。薬の説明書や辞典で薬の副作用は必要時に調べている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 能力に見合う役割を持つことで、生活にメリハリができて生きる意欲にもなっている。気分転換の散歩や嗜好品を買いに行くなどの支援をおこなっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 診療所に薬を受け取りに行くときなどに、数名ドライブかたがた出かけることがある。多少の回り道ならば、本人の行きたいところに寄り道することもある。ホーム内での外出は行事ととらえ、ほとんどの方が参加する。家族と外出する方もある。	
			(外部評価) 外出が困難な利用者もバルコニーを利用するなど、戸外で日光浴ができるように支援している。また、温泉に行ったり、病院の受診など家族の協力で外出する機会を持てるよう働きかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で所持することや、希望のものを買うなどのために小額のお金を持っている方もいる。買い物に行くときはそのお金を使用して満足されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族から音信のない方には、こちらから電話をし、状況報告をしている。そのときには必ず本人との会話も楽しんでもらっている。また、家族からかかってきた場合、本人が来るまでに、ここでの様子を報告している。手紙が書ける方は現在ではおられない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用生活空間では、お互いが気持ちよく使用できるように清潔を維持している。1日2～3回窓を開け換気にも気を配っている。季節に応じた飾り付けを行い、今がいつ頃なのかが理解できるように工夫している。	
			(外部評価) 居間からは、地域の中学校や役場、商店などが一望できる。日当たりもよく、暖かい日はバルコニーに出て日光浴ができる。台所は対面式になっているため、利用者と一緒にご過ごせるようになっている。トイレは車いすの利用者も楽に使用できるスペースがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 畳の間に腰をかけ、利用者同士の会話が弾むことも多い。廊下の隅に椅子を置き、物思いにふける人もいる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 散らかっていると思っても、その人にとって落ち着ける空間だと理解できた。シーツ交換などの後、また交換前の散らかった状態に戻しておくようにしている。本人の居心地のよさを理解するように努めている。	
			(外部評価) ベット、洋服ダンス、整理ダンスは備え付けである。家具の配置などは入居時に使いやすいように配置している。各部屋にエアコンと洗面台が設置されている。カレンダーや小物など、利用者の好みのものが持ち込まれている。利用者が安心して過ごせるよう、生活観を大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 外階段での洗濯物干しに、利用者はシルバーカーに洗濯籠を乗せ、運び・干す。利用者は、職員の手助けをしていると思っている。職員は、いつも「助けてくれてありがとう」と声をかけ、感謝の気持ちを伝えている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871406317
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム昴星
所在地	西予市城川町下相693番地
自己評価作成日	平成23年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の人や家族の方がいつでも訪問出来、職員がきびきびした行動でゆとりのある対応を常に心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議を定期的開催し、地域との情報交換など行い、地域交流に活かしている。家庭的な雰囲気の中で、利用者の思いや意向が実現できるように、取り組んでいる。母体が医療機関であり、毎月の定期的な往診や情報交換により、主治医や看護師は入居者の健康状態を充分把握しており、医療と介護の連携も良好である。利用者や家族の希望があれば、看取りも取り組んでおり、職員の介護力の向上の為の研修や、資格の取得にも積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 昴星

(ユニット名) 第二ユニット

記入者(管理者)
氏名 高橋 志万子

評価完了日 平成 23 年 1 月 4 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所にとって理念とはなくてはならない物であり、誰でもが見える場所に掲示してあり、実践に繋げていける様に現職の者はもちろん、新しく入った職員にも実践につながる様に指導し、共有出来ていると思います。</p> <p>(外部評価) 開設時には法人の運営方針を理念としていたが、分かり易い理念にしたいという思いで職員全員で話し合い、住み慣れた地域で普通の生活が継続できるように、利用者本位の理念を掲げ、日々のケアに活かしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域との付き合いは年々、少しずつではあるが日々努力はしています。天気の良い日は、利用者と一緒に毎日でも散歩をして、日常的な交流は出来ている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議を通じて情報交換はできており、地域の方のホームの認識度も高い。地域の小、中学校の職場体験やボランティアの受け入れ、地域ボランティアの踊りやコーラスの受け入れなどしている。また、1階にデイサービスがあり、地域の方との交流もある。</p>	6年目を迎え、管理者は地域の総会に出席したりと、今以上に地域活動や人々との関わりを積極的に持つように取り組んでいるところである。事業所の力を活かした地域貢献としての取り組みを通して、近隣の方が気軽に立ち寄る事ができる間柄になれるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 中学生の体験学習があり、学校や家庭で話合っていて少しずつ理解をして頂いていると思いますし、ボランティアで訪問して頂いた方が支援の方法を聞かれる事がありますので、触れ合う場を多く持つ事で、接し方など説明して、少しでも役に立つように今後も話あう場を多くしていきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 年に6回運営推進会議を開催して、水害等の防災の時の 協力や他、事業所として出来る範囲の改善策などの 意見を聞き、地域との連携を図る様に努めています。 外部評価の結果報告をしてサービス向上に努めています。	
			(外部評価) 2か月毎に開催できるように、ホームの行事と合わせ て開催するなど工夫している。利用者や家族、地元関 係者、行政の担当、地域の他事業者などに参加して もっている。外部評価の結果報告も行い、会議の出席 者と共に次のステップへ向けて取り組む目標を検討 し、協力を得る取り組みを行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 日頃からの連携は密には言えないが、訪問して頂い た時や書類関係などの場合は、こちらから出向いた り、電話などで協力関係は出来ています。	
			(外部評価) 運営推進会議には出席してもらっており、情報交換や 意見をもらっている。また、困難な事例は相談しアド バイスしてもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 徘徊のある利用者さんもおられますが、玄関を開ける とチャイムが鳴る様になっている為、施錠をする事は ありません。ただ、非常口に出ようとされる利用者さん や日によって行動の変化がある利用者さんもおられ ますので、窓には鍵をかけ、見守りのケアをしていま す。	
			(外部評価) 重度の利用者が多く、入居時などに利用者の状態や状 況に応じて身体拘束を行う場合もある。現在、家族の 同意を得て、止むを得ず身体拘束を行う場合がある。 また、支援経過の記録を元に、毎月カンファレンスを 行い身体拘束についての検討も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 暴力的な虐待はありませんが、慣れて来ると言葉の虐待が出かねません。ケアカンの場合や昼食の時間は話題にして、常に間を置いて接する様に心がけています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度について学ぶ機会は少ない様に思います。利用者さんは理解出来る人がほとんどいないと思いますので家族との連絡で必要性の話し合いを設けることが必要だと思います。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に契約内容を十分に説明をしています。利用者さんの状況が変わって入院等の時も納得して頂ける様に説明したうえで実行しています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時、電話などで要望を聞きケアプランなどに取り入れサービスの質の向上に反映させています。 (外部評価) 家族会は、納涼祭などの行事に合わせて年2～3回開催している。5～6組の家族が参加している。遠方の家族にも定期的に利用者の心身の状況などを報告している。ほとんどの家族が3か月に1回以上、面会に来ており、その際に話し合いも行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ホーム長会議での内容を業務カンファレンスで職員に報告をし、意見交換をして、質の向上や働く意欲に繋がっています。</p> <p>(外部評価) 管理者は毎月の業務カンファレンスで職員の意見など聴く機会を設け、話しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見や提案は、法人のホーム長会議で検討され、代表者に伝わる仕組みもできている。また、資格の取得も積極的に行われている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 個々の努力は報われていない様に思います。人手不足になりがちで有給休暇もままならない状態です。給与の事は何とも言えませんが向上心を持って働ける職場に個々の評価をもっと把握して頂きたい。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修は機会があれば、希望を募り、積極的に参加して技術や知識を身につける様に指導があります。勤務表も研修に合わせて作成しています。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 同業者との交流はあると思います。そこで得た良い事は取り入れていく様に報告、指導がありますので少しずつ相互訪問に取り組んでいます。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 本人の生活習慣、性格等を把握して安心、安楽に生活出来る様に、本人の気持ちを知り傾聴する様に日々努力をしています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査の時にしっかり話を聞き、職員にも伝達しています。本人は自分の状況は分かっておられる方は少ないので家族に気持ちを聞き、出来る限り要望に答えられる様にする事で信頼関係が築けていけるものと思います。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人は、環境が違う場所で生活をされるので、まず、グループホームの生活（共同生活）に馴染んで頂く様に努め、家族と連絡を取り安心して頂ける様に支援して行く。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の生活習慣、性格等を把握して安心、安楽に生活出来る様に、本人の気持ちを知り傾聴する様に日々努力をしています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の思いを知り、個々の出来る事を見出し、家族共通点（いつまでも元気でいてほしい）を思いながら維持出来る様にゆっくり接する時間を大切にしています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 関係維持をする為には、家族の協力なしでは難しく、関係が途切れない様にまではいきません。面会に来て頂いた時には、ゆっくり、自室で話して頂く様に配慮はしています。場所は外出の時、通って思い出して頂いたり、家族が外出されて連れて行かれる方もおられます。途切れない様にしていきたいものです。 (外部評価) 「家を見に帰りたい」「姉に会いたい」など個々の利用者の希望に沿うように外出などの支援を計画している。また、家族にも協力してもらい温泉に行くなど、積極的に関わられる機会を持ってもらえるような支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日常生活の中で、洗濯物を一緒にたたんで頂いたり、リハビリ体操の参加、おやつ等全員で楽しく頂ける様に支援し、一人で孤立しておられる方は現在はいません。職員が輪の中に入り毎日努力しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても、同じ系列のグループホーム等に移られる場合が多いので、必要に御おじて対応しています。写真を届けて喜んで頂いた事もあります。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアカンファレンスや昼食の時間に職員同士で話し合い本人の思いを知り、その人らしさを把握して、可能性に向けて職員が共有しながら日々支援しています。 (外部評価) 利用者本位の生活が送れるように支援している。寝たきりの利用者についても、職員の思い込みの介護にならないように表情など見ながら支援している。家族の面会時には時間をかけて話を聴くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族が面会に見えた時、生活歴をしっかりと聞き、出来る事は継続して頂く様に努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 出来る事、出来ない事、一人ひとりに配慮しながら力が発揮できるように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 設定期間ごとに見直し、話し合い、現状に即した介護計画を作成し、家族に連絡をしながらケアに繋げている。家族の同意を得ている。	
			(外部評価) 各ユニットごとに、毎月カンファレンスを行っている。全職員の意見が聞けるように、事前に文書で提出してもらって介護計画の実施状況や達成状況について評価し、計画作成者と職員で話し合い、状況に応じて計画の変更も行っている。家族には計画の説明をし同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画に沿ったケアを活かし実践しています。身体状況が変わった場合は見直しをし、職員で申し送りを密に行い、共有しながら支援をしています。介護記録の仕方は、マンネリ化している傾向にあるので、勉強が必要と思います。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 状況に応じたニーズに対応し、柔軟な支援を心がけています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 安全で豊かな暮らしが出来る様に民生委員やボランティア教育機関、郵便局、消防等の協力は得ていますが、多様な地域資源と協働は十分とは言えない。今後は、もう少し町の商店など楽しむ事が出来る様に支援したい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 運営者の主治医が二週間に一度往診に見えて、適切な 医療を受けます。本人が受診を希望される場合は、 職員が付き添って受診しています。眼科、歯科の受診 は、家族の希望も有り、専門医の医療をうけていま す。</p> <p>(外部評価) 定期的な往診と24時間の医療連携により、きめ細や かな健康管理や情報の共有化ができており、適切に医 療を受ける事ができている。協力病院との連携もでき ており、利用者や家族にとって安心できる体制ができ ている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) かかりつけの医療機関から周に一度訪問して頂き、健 康状態を把握されています。問題点に気がつけば申し 送りもしていますし、電話での助言もして頂く様に連 携は出来ています。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 運営者の主治医の指示に従い、入院の場合は、家族に 早期に連絡をして、主治医の説明を聞いて納得しての 入院になります。その際情報提供書を提出して、職員 も付き添います。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) ベット上での生活が長い利用者が、状態が悪くなる事 を予想して、早い段階から家族と話し合い、主治医の 指示を仰ぎ、出来るだけの支援が出来る様に職員が共 有している。終末期のあり方は、家族の希望を十分に 聞き入れ希望に添える様に支援している。</p> <p>(外部評価) 開設当初から母体の医療機関と連携し、24時間体制 での看取りを実施している。家族、主治医など関係者 と充分話し合いを行い、協力して利用者の終末の支援 を行っている。また、ターミナルケアの研修を実施 し、全ての職員が対応できるように取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 介護職に付く時に、全員が訓練を実践していると思いますが、定期的に行ってはいないので、突然起こればパニック状態になると思う。自主的に勉強している職員もいるが、訓練を行い、全ての職員が実践力を身につけ、実際の場面で活かせる様にしたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災、災害その他の対応緊急連絡網を作成し掲示している。半年に一回消防署の協力を得て訓練も実地しています。夜を想定して訓練を行った事もあります。地域の組入りもさせて頂き、防災の協力をお願いしています。 (外部評価) 年2回の消防署立会いの避難訓練を実施している。運営推進会議でも報告したり、災害時の協力もお願いしている。また、ホームを避難場所として提供できる事も話している。IHの調理器具を使用し、喫煙は決められた場所で行うようにし火災を起こさないように気をつけている。	非常災害が発生した場合を想定し、定期の避難訓練とは別に日常的に具体的な対処方法や、避難経路及び協力機関などとの連絡方法を確認しておくことが望まれる。また、運営推進会議で地域の関係者と避難訓練を行うよう検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底しようとは、心がけていますが、慣れてくると、言葉かけや対応が雑になりかねないので、気が付いた時は、職員同士で注意し合う等をして、確認したい。 (外部評価) 家族に普段の呼び名で声かけする事を了解を得ており、利用者のよっては「・ちゃん」と呼んでいる方もいる。声かけに問題がある時は、職員間で話し合っている。プライバシーの保護や法令遵守の研修は毎年行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 表情や全身で反応を注意深く観察はしているが、その人らしさが個々違う為、突然、不穏状態になられる方もおられます。本人の希望通りになる様に日々努力はしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り一人ひとりのペースに合わせているつもりではあるが、つつい職員側の都合に合わせている場面も多くある様に思う。もう少し柔軟になる様反省しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみは、職員全員で支援しています。自分で出来ない人に対してだけ、入浴後の服などは気に入った物を一緒に選んだりしています。理美容院の利用は家族と外出された時に行かれる方もおられます。衣服の調整は職員が常に声かけをして希望に沿う様にしています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下拵えを一緒にしたり、配膳、片付け、代拭き等、役割分担をして、出来る人に出来る事をお願いしています。利用者は食べる事が一番楽しみの様ですので、一緒に味わっています。 (外部評価) 利用者のできる事を大切にしながら、職員と一緒にやっている。地域のスーパーから材料は配達してもらっているが、野菜は自家栽培の物を使用している。野菜中心の健康的な食事内容になっており、利用者も残さずしっかり食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員が献立を立て、季節の野菜（ホームで作っている）を多く取り入れ、その人に合った摂取量に配慮しています。水分チェック表で一日の水分量を記録し、職員全員が把握しています。料理に合った食器等も工夫しています。献立の内容についても業務カンファで話合う事もあります。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 出来ない人に対しては、全面的に、毎食後介助しています。出来る人に対しても習慣が維持出来る様に支援しています。ベット生活の方に対しては、訪室する度、口臭がひどくならない様に、清潔保持に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 時間を見てトイレ誘導をしていますが、漏れがあっても気がつかれていない利用者も、中にはおられます。年々失禁が多くなっている様に思います。夜間は出来るだけ失禁されない様に、時間を見て、声かけをし、誘導しています。</p> <p>(外部評価) 寝たきりで重度の利用者はオムツを使用しているが、他の利用者は紙パンツなど使用しトイレ誘導をしている。夜間はポータブルトイレを使用している利用者もあり、利用者の状態に応じた排泄支援をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便秘はストレスの原因にもなりかねないので排泄チェック表で確認をして、胃腸の働きを良くする様に、散歩等をして頂き、出来るだけ身体を動かして頂く様にしています。又、今の時期は、おやつに、さつまいもなどを出したり便秘解消に気を付けています。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) ほとんどの人が入浴は、嫌がらず入られます。手の届かない所は介助しながら、ゆっくりと一人ひとりのペースで入浴して頂いています。介助しながら会話も弾みます。入浴後は皆さん気持ちが良いと言われます。</p> <p>(外部評価) 家庭用のユニットバスで週2～3回の入浴を行っている。希望により毎日でも入浴できるよう対応している。午後7時までであれば希望の時間に入浴はできるが、今は午前中に入浴する利用者がほとんどである。重度の利用者も浴槽につかれるよう職員2人で介助している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) ほとんどのの方が生活のリズムが出来ています。が、状況の変化がある時は（例えば、面会等）興奮してリズムが狂う時もあります。そんな場合は、話をよく聞いて、部屋の温度調整をしたりして安眠に繋げています。一人ひとりに合った活動状況に応じた休息も出来ています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員全員が把握しています。薬の使用ファイルに綴り確認しています。変化がある場合は、直ちに主治医に相談して指示を仰ぎ調整をしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとり、それぞれに自分の出来る事はして頂き、自分の役割としてされていますし、編み物、散歩、タンスの整理、等をされています。折につけ、声かけをして楽しみ事は一緒に楽しみ、周囲の利用者への配慮をしながら支援しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調に気を付け、毎日でも散歩の出来る方は外出しています。気分転換にデイに降りたりされる利用者さんもおられます。普段出かけられない場所は、行事計画を立てお弁当持参で出かける様に支援しています。	
			(外部評価) 外出が困難な利用者もバルコニーを利用するなど、戸外で日光浴ができるように支援している。また、温泉に行ったり、病院の受診など家族の協力で外出する機会を持てるよう働きかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理が出来る利用者はほとんどおられませんので外出の時は、希望のある方には、自分で払って頂く様にお預かりしているお小使いで、一緒に会計をする様にしています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書いて頂く様に進めてはいますがなかなか書いてもらえないのが現状です。電話は、書類関係等で掛けた時は、必ず本人にも出て頂いてお話をさせて頂いています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日、清掃をして清潔にし、季節の花を生け、室内の温度調整をしたり、壁には季節に合った絵を貼ったり、その月に行った行事の写真を貼り、居心地よく過ごして頂ける様に職員全員で工夫をしています。</p> <p>(外部評価) 居間からは、地域の中学校や役場、商店などが一望できる。日当たりもよく、暖かい日はバルコニーに出て日光浴ができる。台所は対面式になっているため、利用者と一緒に過ごせるようになっている。トイレは車いすの利用者も楽に使用できるスペースがある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 畳にはこたつがありテレビも自由に見て過ごせるスペースがあります。自分の場所のいすに座り、本を読んだり新聞を読んだりされています。天気の良い日は、窓越しに日向ぼっこをして過ごされる方もおられます。が特別な工夫はしていません。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 特別な工夫はしていません。入居当時は、使い慣れた物を家族にもお願いするのですが、写真は破られるし、植物や花等も飾るのですが、すぐ、のけられますので現在は、誕生日でお祝いした書き物を掲示したり、暦を置いたりするだけです。それでも自室が分かり、定着した方は、心地よく過ごされていると思います。</p> <p>(外部評価) ベット、洋服ダンス、整理ダンスは備え付けである。家具の配置などは入居時に使いやすいように配置している。各部屋にエアコンと洗面台が設置されている。カレンダーや小物など、利用者の好みのもが持ち込まれている。利用者が安心して過ごせるよう、生活観を大切にしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの力を活かし、出来る人には出来る事が、維持出来る様には、毎日の生活の中で活かしています。安全な環境作りは、行動範囲に物を置かない様にしたリ、トイレの場所はテープで目印をし、椅子に座られた時に傾いて座られる方には、転倒しない様に防止をしていますが、まだまだ工夫は必要だと思います。</p>	